

お茶漬け

男1 レストランの前を通りがかる

男1 お腹すいたな。どっかに飯屋ないかな。

レストランの中に男2が座っていて、お茶漬けをとても美味しそうに食べている。

男1 なんか美味しそうだなあ。ここに入ってみるか。

男1 店に入る

男3 いらっしやいませ。お一人様でよろしいでしょうか。

男1 はい。

男3 ではこちらの席にどうぞ。

男1 席に座る

男3 ご注文はお決まりですか。

男1 えーと、じゃあウーロン茶とこのお茶漬けをお願いします。

男3 お茶漬けですね。こちら当店人気No.1なんですよ。お客様お目が高いですね。

男1 へえそうなんですね。

男3 すぐにお持ちしますね。

男3 下手にはける

男1 やっぱりお茶漬け人気なんだなあ。楽しみだな。

男2 突然立ち上がり、男1に話しかける

男2 あの。

男1 は、はい。

男2 何で入ってきたんですか。

男1 はい？

男2 何で入ってきたか訊いてるんです。

男1 え？

男2 もしかして僕の食べてる所見て入ろうと思いましたが？

男1 何でわかるんですか。

男2 何で入ってきちゃうんだよ。

男1 だって美味しそうに食べてるんだもん。そりゃあ食べたくなくなるでしょ。

男2 それがダメなんですか！

男1 はい？

男2 僕あなたみたいにお腹減ってお店探してる人をここに誘き寄せるために雇われてるんです。

男1 何その変な仕事。

男2 あなたが来たせいでまたここから逃げられなくなったじゃないですか。

男1 逃げる？

男2 この店長に脅されてるんです。お茶漬け100杯売るまでお茶漬け食べ続けないと僕殺されちゃうんです。

男1 怖すぎだろ。

男2 だから逃げようと思計らってたのに、あなたがほいほい入ってくるから！

男1 そんな事言われても。今何杯ぐらい売れてるんですか。

男2 95杯。

男1 頑張れよ。もうちょっとじゃん。

男2 冷静に考えて。お茶漬け95杯はもう頑張りが過ぎてるから。

男1 確かに。あまりに美味しそうに食べてたから。いけそうじゃんって思っちゃって。

男2 美味しそうに食べないと店長に殴られるから仕方ないんです。

男1 なんかこんなの知ったら食べる気失せちゃったな。

男1 帰ろうとする

男2 ちょっと待って下さいよ。何帰ろうとしてるんですか。

男1 いや帰りますよ。こんな状況でお茶漬け食べたくないし。

男2 ここまで来て食べないはないですって。あなたのせいで逃げれなくなったんだから、せめてお茶漬け食べて数稼いでくださいよ。

男1 えゝ

男3 ウーロン茶を運んでくる

男1・男2急いで席に戻る。男2はお茶漬けを美味しそうに食べる。

男3 こちらウーロン茶になります。

男1 どうも。

男1 男2を見る

男1 95杯食べてるとは思えないぐらい美味しそうに食べてる。

男3 もう少してお茶漬けお持ちしますね。

男1 あっはいありがとうございます。

男3 こちらお茶漬けになります。

男3 男2の机にお茶漬けを置く。

男2 どうも。

男2 お茶漬けを食べ始める。男3 下手にはける。

男1 あなたやっぱり余裕あるんじゃないですか。

男2 いや今見張られてるから。

男3 物陰から見ている。

男1 うわ見てる。

男2 見張られてるうちは油断できないんです。お願いですからお茶漬け食べて帰って下さいよ。

男1 もうこれ警察に電話した方がいいんじゃないですか。

男2 お茶漬けいっぱい食べないと殺されるんですって誰が信じるんですか。

男1 ていうか何でこんな商売の仕方してるんですかね。

男2 知らないですよ。

男1 実はまずいとか？

男2 いや味は美味しいよ。

男1 美味しいんだ。

男2 売上伸ばすために考えた結果がこれなんじゃないですか？

男1 ストロングスタイルすぎない？売り方をこねくり回しすぎですよ。

男2 何で俺こんな闇バイト応募したんだろう

男1 これ闇バイトって言うのかな。

男2 とにかくお茶漬け食べて僕を助けて下さいよ。

男1 なんかこんなの知ったら食べる気無くしちゃったな。

男2 えっ食べないんですか。

男1 いや無理でしょ。

男2 ちょっと待ってよ！

男1 すいません。

男3 席にやってくる

男3 いかがなさいましたか。

男1 さっき注文したお茶漬けキャンセルして、オムライスに変えたいんですけど。

男3 キャンセルされるんですか。このお茶漬け一応当店No.1の商品なんですけど…

男1 いやそれはわかるんですけど。

男3 あのお客様を見て下さい。

男2 とても美味しそうに食べている。

男1 めちゃくちゃ美味しそうに食べてる！

男3 お客様にも是非当店のお茶漬けの味を味わってもらいたいです。

男1 9.5杯食べてるとは思えないほどの食べっぷりなんですけど。

男3 いかがいたしますか。

男1 やっぱりお茶漬けのまままでお願いします。

男3 かしこまりました。もう少々お待ちください。

男3 はける

男2 耐えた〜！

男1 あんたすごいな！

男2 命かかってるから！

男1 必死だなあ。

男2 じゃあ今の内に俺は逃げるんで。

男2 逃げようとする

男1 えっ逃げんの？

男2 今しか逃げるチャンスないでしょ。じゃあお茶漬け楽しんでください。

男1 待ってよ！

男1 男2を押さえる

男2 あんまり押さえないで出ちゃう！

男1 今更逃げるなんて勿体無いよ。努力が無駄になるぞ！

男2 このままだと俺の努力全部出るから！

男1 ごめんなさい。

突然怖いBGMが流れ始める。男3 デカイ包丁を持って現れる。

男1 え？なに？

男2 出たあ！

男3 逃げるなよ。

男2 勘弁して下さい！もう限界なんです！

男3 逃げたら…

男3 怖い動き

男2 うわあ！

男1 これお茶漬けのお話ですよ！サスペンス映画じゃないですよ。

男3 俺はただお茶漬けを食べてもらいたいだけだ。

男1 お茶漬けへの情熱がずっとずれてますって。

男3 お茶漬け食べろ！お茶漬け食べろ！

男1 もう一生お茶漬け食べれないよ。

男2 もう嫌だあ！

男2 走って逃げる。

男3 逃げたか…。おいあいつを追え。意地でもお茶漬けを食わせるんだ。

男1 誰に連絡してるんだろう。

男3 おい。

男1 僕ですか？

男3 お前しかいないだろ。お前のせいであいつが逃げたんだ。責任とれ。

男1 はい？

男3 あいつを捕まえるまでお前がお茶漬け食え。

男1 いやでも…

男3 はい？

男1 食べます…

男3 さあ食べ。

男1 この状況で食べれるわけない…

男1 席に座ってお茶漬けを食べる。

男1 うまい

終